

2025年6月22日練塀勉強会vol.4 イベントレポート

2025年6月22日

令和7年(2025年)6月22日(日)、東京都港区芝公園にある増上寺会館にて、「練塀」の歴史や大門地域の文化や変遷を学ぶ勉強会が開催されました。今回の勉強会は、港区の企業の方々や地域住民、歴史愛好家など50名を超える参加者が集まり、過去最高の参加者数となる盛況ぶりを見せました。県外から参加の方もいらっしや、広く一般に開かれた学びの場として、多くの方々に関心を寄せていることがうかがえました。



勉強会のプログラムは、多彩な講師陣による講演で構成され、それぞれが異なる視点から「増上寺とその周辺の歴史文化」を掘り下げる内容でした。まず、京都工芸美術大学教授・井上年和氏による講演『史料に見る増上寺周辺の練塀』では、江戸時代から続く練塀の歴史と、その構造や意匠の変遷について、豊富な史料とともに解説されました。普段何気なく目にしている塀のひとつひとつに、時代背景と人々の暮らしが色濃く刻まれていることに、参加者一同感銘を受けました。

続いて登壇したのは、港区観光大使であり港区観光協会寺社部会長でもある澤内隆氏。『目指せ！日本遺産「東京タワーとその界限」～芝公園の国・重要文化財&登録有形文化財～』と題し、東京タワーを中心とした芝公園周辺の文化資産について分かりやすくご紹介いただきました。名所として親しまれてきたエリアの裏側にある価値を再発見する機会となり、観光と文化保護の両立の重要性が強調されました。

三人目の講師は、芝大門にある老舗そば屋「[更科布屋](#)」のご当主、金子栄一氏。『老舗当主に語っていただく、江戸数百年の芝大門の歴史』と題し、江戸時代から受け継がれてきた商いの歴史や、町人文化の変遷について、実体験に基づいた貴重なお話を伺いました。時代の流れの中

で変わってきたこと、そして変わらず大切にされていることの両方が語られ、参加者の関心を大いに集めました。



最後に登壇したのは、廣度院副住職の西城千珠氏と、練塀保存委員会の山本高史氏。お二人の講演『増上寺の「練塀」／港区の寺社・武家屋敷の「練塀」』では、地域に現存する練塀の保存活動や、文化的・歴史的価値について具体的な事例を交えて紹介されました。現代において文化財を守ることの意義と、それに携わる人々の熱意がひしひしと伝わってくる内容でした。



今回の勉強会は、地域の歴史や文化財への理解を深めるだけでなく、参加者一人ひとりが「まちの価値」を見つめ直すきっかけとなりました。今後もこうした取り組みを継続していくことで、地域の歴史や文化の理解を深め、発信していきます。